

# 読書のすゝめ

その 42

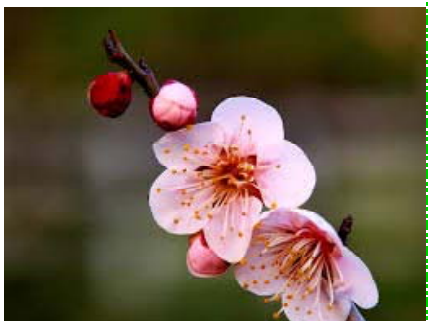
H 29

2 / 24

## 29年度県東地区生徒図書委員会 課題図書

来年度（6月頃）潮来高校で開催される、県東地区生徒図書委員会の読書会用課題図書3冊が決まりました。担当校と作品を紹介します。

- ① 『ツバキ文具店』 小川糸 . . . . . 潮来高校
- ② 『とりつくしま』 東直子 . . . . . 鹿島高校
- ③ 『コンビニ人間』 村田沙耶香 . . . . . 鹿島灘高校



『コンビニ人間』は芥川賞受賞の本。『純文学』でも読みやすく、共感できる部分もある話題作です。『とりつくしま』は『読書のすゝめ』41号で紹介したばかりの本です。「もしもくだったら」をテーマに読書会が充実したものになれるとよいと思います。『ツバキ文具店』は本屋大賞にノミネートされています。多くの先生方の支持を受け、今回課題図書に選ばれました。担当の潮来高校さんが、単なる話し合いだけでは終わらない『しかけ』を考えてくれると期待しています。3冊ともに本校図書館にありますので、読み比べて読書会に参加してみても良いでしょう。

### 『とりつくしま』 東直子（ちくま文庫）



11の独立した短編集。死んだあなたに「とりつくしま係」が問いかける。この世に未練はありませんか。あるなら、なにかモノになって戻ることができませんよ、と。そうして母は息子のロージンバッグ、娘は母の補聴器に、夫は妻の日記に. . . . .すでに失われた人生が凝縮してフラッシュバックのように現れ、せつなさや温かさや哀しみ、そして少しのおかしみがにじみ出る。

出版後、朗読に使いたいという申し出が多く寄せられたとのことだが、一話につきだいたい二、三十分で語られる分量のよさだけでなく、それぞれの話が、語る人・聞く人の胸に響くからだと思ふ。

### 『ツバキ文具店』 小川糸（幻冬舎）



本書の主人公は鎌倉の一軒家に住む、雨宮鳩子。物語は鳩子に持ちかけられる代書の仕事を中心に綴られている。鳩子が書いた代書は、そのまま本書に載っている（書体も体裁も一つ一つ違うところが、また味がある）ので、そちらを実際に読んでほしい。手紙の内容だけではなく、用いる筆記具から便箋、封筒、切手、インクに至るまで、細部にこだわって仕上げられる代書の数々の素晴らしいこと！読み終えると、無性に手紙が書きたくなる。手紙じゃなくてもハガキでもいい。とにかく、PCや携帯のメールではなく、自分の肉筆で、自分の言葉を誰かに伝える。それは、「お元気ですか」の一言でもいい。鎌倉に行きたくなってしまふ。いざ、鎌倉！

### 『コンビニ人間』 村田沙耶香（文藝春秋）



主人公は36歳、独身で彼氏ができたことはなく、大学時代から18年間コンビニのアルバイトを続ける古倉恵子。公園で死んでいた小鳥を「お父さんが好きだから焼き鳥にして食べよう」と母に頼んだり、男子たちのケンカを止めるのに突然スコップで殴ったりして、奇妙がられる子供だった。多数派の価値観への違和感を抱きながら、彼女は家族や友人たちが望む「普通」を演じる努力を続けていく。主人公の視点で語られる独特のズレた感性による人間観察は、不気味だが味わい深い。そして、彼女が最終的にたどり着いた結論は、奇異な感じはあるけれど、自分の生き方を貫く納得できるもののように思える。

### ※ 図書館内の模様替えをしました！

まだ途中ですが、ペランダ側の書架を移動し、明るく開放的でゆったりと過ごせる空間ができました。学習参考書やコミック、新書などが移動していますので館内をぐるりと見てください。お探しの本は、図書委員または係教師に声をかけてください。